

特別支援だより No. 16

令和3年8月23日（月）

特別支援教育コーディネーター 松田敦子

② 「聞く」ことは、考えること



授業では先生の「問い」に対して、子どもたちが「答える」という形で成立しています。子どもたちは先生から発せられる「問い」や問題から、「おや?」という疑問をもち、考えるのです。その上で、自分なりに考え、判断して「答える」のです。ですから、どんな「問い」を子どもたちにもたせるかが、先生の役割といえます。もちろん、この場合の「問い」は、クイズの答えのように、イエス・ノーだけのあたりはずれで判断されるものとは異なります。「ああかな」「こうかな」と考え悩むような、適度な抵抗感をもった「問い」です。

このような子どもに『自分の考え』をもつことができるような授業づくりは、「生きる力」の内実である、自ら課題を見つけ、思考・判断し行動する子どもの姿を求めているといえます。

『自分の考え』をもつためには、基礎的な知識とともに「聞く」「見る」という態度が必要です。

このため、低学年のとき、親が子どもを学校に送り出す際に「先生のお話をよく聞くんですよ!」というのは、聞くということが「考える」という“学力”に大きく関わっているからだといえます。そして、中学年では、先生の話だけではなく友だちの話も、自分の考えとの違いに着目しながら「聞く」ことや、自分の考えを付加するために「聞く」などというように、「聞く」ことにも成長が見られます。

高学年では、要旨をまとめながら聞くとか、大切なことは何かと聞くような「聞き方」に変わっていくのです。

「聞く」ことは、思考力のスタートです。

Q8

授業中の“問題と思われる行動”への対応は、 どうすればよいのでしょうか？

自閉症児は、授業中に突然大きな声でコマースの真似をしたり、状況に関係のないことを言い出すことがあります。また教室につばを吐いたり、かんしゃく（パニック）を起こすといった“問題と思われる行動”に対応しなければならないこともあります。

自閉症の特性から考えてみましょう

- 問題と思われる行動を起こす時には、必ず何らかの理由があります。授業の内容が分からないことや、教室が暑い、音がうるさいといった身体的・感覚的な不快感があることなどが考えられます。
- 授業内容が分からないことに対して何となくイライラしたり、人が不快になるような言葉をわざとすることがあります。周囲の児童が反応したり大人が怒ったりすることが目的で行っている行動なので、その言葉の直接的な意味にとられないようにします。
- 身体的・感覚的な過敏性は生理的なものなので、本人自身には原因がまったく分からず、漠然とした不快感を抱いていることが多いものです。他に訴える手段がないために、問題と思われるような行動を起こしてしまうと考えられます。
- また、周囲の音を遮断して自分の気持ちを落ち着けるために、声を出すこともあります。
- 「何でも一番になりたい」、「間違ったり×をつけられることを嫌がる」といった、こだわりがある場合もあります。

支援のヒント1 ● 自閉症児への指導例

小学校4年生の知的障害を伴う自閉症の女児。自分の得意な教科は学習できるが、分からない学習のときは、教師に向かって「ゴキブリ」などと言います。周囲の子どもが笑うと、喜んだりしています。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 授業内容が分からないことを本人なりに訴えていると肯定的に解釈し、みんなと同じことをするように要求せずに、子どもがうまく授業に参加できるような配慮をする。また、分からないことを訴えるためのサインを本人と取り決めたり、可能ならば、特殊学級の先生や通級指導教室の先生と連携して、適切なコミュニケーション手段を身につけられるように指導する。
- ② 授業に関係のない独り言を言い始めた時は、直接相手にしない。大事な話をする時や要所要所では、一時的にでも制止できることを目標に指導する。独り言がどのような場面が多いのか、記録をとってみることも重要。
- ③ 言葉の理解に困難のある場合には、視覚的に分かりやすい教材や絵カードなどを使用し、学習に参加しやすくなるように工夫する。
- ④ 保護者と相談して、一人で学習可能な別のプリントや、作業的な課題を用意する。

支援のヒント2 ● 高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童への指導例

小学校3年生のアスペルガー症候群の男児。いろいろなことにこだわりがあり、一番にならないと気がすまず、指名されないと怒ります。また、女の子が誉められると怒るといった特異なこだわりもあります。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 予測できるこだわりについては授業に入る前に話し合い、その日の目標を取り決めておく。初めのうちは特に、必ず達成できる目標を設定する。（教師が個別に日記指導などを行っているような場合は、取り決めた目標を書くようにしてもよい。教師が評価を書き込む際には、できるだけ肯定的な書き方をするといい配慮が必要。）
- ⑥ 怒ることが分かっている場面を回避するように心がける、我慢ができたら誉めるといった、こまめな配慮も必要。座席を教師の近くにして、個別に声をかけたり、頭や背中に手を置くなどの合図をすると我慢できることもある。
- ⑦ 一見わがままと見える行動だが、自閉症特有のこだわり行動であることを認め、本人が満足でき学級運営上も差し障りのない範囲で許容しながら、特殊学級担任と連携をとり、可能ならソーシャルスキルトレーニングなどの学習を進める。
- ⑧ パニックを起こした時は、パニックが収まって落ち着いてから話しかけるようにする。（避難場所の設置が必要なこともある。）
- ⑨ 他の教職員や保護者とも連携し、周囲の対応の仕方を一定にする。